

ひなみ大学

差別

本当のところ、差別と区別に違いはあるのか？

「ひなみ大学」で学ぶ塾生から、以下のような問題提起がありました。「差別を語る際に難しいと感じることの一つに、ある弱者について語ることで別の弱者が顧みられなくなることがある。今回の講義でも弱者の具体例として女性や外国人、障害者といった人々が挙げられたが、学歴や経済の競争に敗れた男性という視点はおやびんが指摘するまで挙がらなかった。けれどもそのような男性が今現在苦境に立たされているのは事実である。つまりあるカテゴリの人々について言及すればするほど、それ以外のカテゴリの人(例えば女性に対する男性)の難しさが議論から抜け落ちてしまう。そのような問題点があると考えられるから、差別の啓発活動(例えば、日本のジェンダーバランスが世界何位、先進国では最下位といった報道をことさらに言うこと)というものが社会全体の差別の解消につながるかという事について訝しんでいる」そこで、このシリーズでは、「差別」に対して可能な限り多角的に光を当てつつ、対話を深めます。

① 6/26 人はなぜ差別するのか	⑦ 8/14 年齢差別
② 7/3 差別の受益者は誰か	⑧ 8/21 外見差別
③ 7/10 差別対策の本質は何か	⑨ 8/28 人間中心主義
④ 7/17 性差別と性的志向差別	⑩ 9/4 差別の複雑性
⑤ 7/24 人種・民族・外国人差別	⑪ 9/11 差別はなくならないのか
⑥ 8/7 障害者差別	⑫ 9/18 差別とは何か

◀ 2025年10月2日より「脳～本当のところ、努力次第で頭はよくなるのか？」がスタートします▶

【講座要項】

日 時	毎週木曜日 20:00 ～ 21:30 受講はオンラインのみ ※ 英語A、英語B、武道クラスの受講者は振替受講も可能です	受講はこちらから  ZoomミーティングID: 719 1802 3488 パスワード: 018303 ※事前にアプリをインストールしてください。
受 講 料	12,100円(税込) 体験受講料 1,000 円(税込) ※ 各テーマにつき1回、体験受講できます (塾生とその家族は無料)	
申込／問合せ	T E L / 090-8220-1010(担当ミウラ) MAIL / qt@hinami.org	

※ 裏面の受講者感想をぜひお読みください。

【受講者感想】

※ 所属及び学年は、感想をいただいた当時のものです。

中学生の頃から現在に至るまで、ひなみ大学を10年近く受講し続けていますが、自分の知的な成長に大きく役立った実感があります。このクラスは3か月ごとに学習テーマが変わり、宗教や哲学からポップカルチャーに至るまで様々なことを学んできましたが、中学時に受講を始めたことで、このクラスで取り扱った各テーマについての学びと同じかそれ以上に、学問そのものに向き合う姿勢や、学校での教科学習にとどまらずにそれを超えて勉強すること、すなわち学ぶ上で土台となるものが理屈抜きに身についたと感じています。京都大学に進学して地元を離れた今でもこのクラスにオンラインで参加していますが、ともすれば同じような性質の人が多く集まるいわゆる「大学」とは違って、ひなみ大学には様々なバックグラウンドを持つ人たちが会するので、社会とのつながりをより意識することが出来ます。もちろん個々のクラスも知的興奮を与えてくれるという点で面白く、それも現在受講している理由なのですが、それと同じくらい、社会の中で生きる様々な人たちとの会話を通して刺激を受けることが多く、このクラスを毎週楽しみにしています。

藤中一心（京都大学在学中）

ひなみ大学を受講して得たものは数え切れませんがあえて一つ選ぶならば「真に学問すること」の楽しさを知ったことです。自分は幼い頃から小、中、高校と受験を繰り返して来ており、学校のテストでいかに評価されるかということに捉われていました。しかし、ひなみ大学に通うことでそれがいかに狭く縛られた価値観だったかを思い知らされました。なぜなら、学校のテストというものはあくまで入試を突破するためのものさしに過ぎず、それ以上でも以下でもないからです。学問することは今の自分を俯瞰し、これからどう行動するかを見極めることだと信じています。決して点数化できるものではありません。そうして思考した経験は間違いなく僕の宝物になっています。ひなみ大学では年齢、職業問わず、あらゆる方が一同に会して勉強します。純粋に学問を楽しみたい方、今の自分を見つめ直したい方、特に学校の勉強に窮屈さを感じている方はぜひ受講することをお勧めします。

角凜人（高校3年生）

僕は、ひなみ大学を半年間続けて変わったことが2つあります。1つ目は、このクラスには「難しい」というイメージがありました。でも、おやびんが小学生の僕にも分かりやすく、たまに面白おかしく説明してくれます。学んだことを生かして自分たちで話し合う時間も、僕が話について行けていない時には、先輩たちが助けてくれるので、安心です。2つ目は、難しいと感じるときには、とりあえず聞いているだけでも頭に入ってくることがあって、すごくよかったということです。完全には分からなくても、自分なりにがんばって聞いていると、なんとなくだけど理解ができます。聞いたことをおさらいすると、その日のお話が頭に入って覚えられます。ここで教わることは無駄じゃないと感じるし、ここで学んだことが生活や学校の勉強などの中で役に立った時は、とても嬉しいです。

峠晴文（小学6年生）

《 2025年10月2日より「脳～本当のところ、努力次第で頭はよくなるのか？」がスタートします 》